

ブダペスト通信

盛田 常夫



2025年 No. 9 (3月10日)

世界で活躍する日本人選手に声援を

日本女子サッカーが強くなっている

2011年のW杯で優勝した日本女子チームは、その後、長い低迷期に入った。澤穂希と宮間あやを擁する日本は、驚異的な粘りで米国を破って初優勝したが、その後は下降の一途を辿った。

ところが、近年になって、男子と同様に、欧州リーグに参戦する選手が増え、日本チームの底上げが実現している。現在ではマンチェスターシティ（Manchester City Women's Football Club）に所属する日本人選手は5名にも上る、しかも、長谷川唯はゲームメーカーとしてチームを引っ張っている。そして、今話題になっているのが、谷川萌々（もも）子である

160cm に満たない長谷川選手とは対照的に、19 歳の谷川選手はすでに 170cm を超える身長と 70 kg を超えると思われるウエイトの大型選手である。公称では 168cm、58kg とあるが、かなり前のデータである。彼女のビデオを見ると、毎年、確実に体が大きくなっている。実際、今シーズンから加入したバイエルンミュンヘンの顔見世で衝撃的なアシストとゴールを記録したゲームを見ると、相手ディフェンダーよりはるかに体が大きい。大柄な谷川が器用な足さばきで、ディフェンダーを交わしていく様子は、従来の日本人選手にはないタイプの選手である。



Source: FC Bayern.

谷川選手はパリ五輪対ブラジル戦のロングシュートで一躍世界に名を知られるようになった。現在でも Eurosport チャンネルで谷川選手のゴールシーンが繰り返し放映されているが、あのゴールはブロックではなかった。2024 年 1 月にバイエルンミュンヘンに移籍した谷川選手はすぐにスウェーデンリーグのローゼンゴードにレンタルされ、2024 年シーズン優勝の立役者となった。ローゼンゴードではエースナンバー 10 番を付け、ボランチの役を果たしながら、前線への突破力とロングシュートの強みを生かして、20 試合で 16 ゴールをたたき込み、ゴールクィーンになった。これで今シーズンからバイエルンミュンヘンにレンタルバックされた

女子選手として大柄な体格ながら、足が速くて突破力があり、かつ左右どちらの足でも蹴ることができる器用さを持ち合わせている。ローゼンゴードでは左右のコ

一ナーキックを任されていた。ブラジル戦のロングシュートは右足、一番最近のコロンビア戦のロングシュートは左足だった。これほど両脚で強くシュートできる選手は国際的に見ても稀である。小学生時代には男子チームに入ってゲームメーカーの役割を果たしており、戦況判断や対人突破力は女子選手としては並外れている。

谷川選手にはスケール感があり、重要な場面でゴールを決めるという強運にも恵まれている。女子バロンドール賞やプシュカシュ賞を獲得する逸材だと注目されているが、日本チーム内での立ち位置はいまだ明確になっていない。ボランチ、中盤、ウィングなどどこでも役割をこなせるが、ゲームメーカーの長谷川とどのように融合させていくかという問題が残されている。体は今も成長しており、少しウエイトを絞って、機動力を確保する必要があるように思える。

今後の活躍に注目したい。

園部八奏（わかな）選手に期待する

女子テニスの期待の星は、今年的全豪ジュニアで優勝した園部八奏選手である。17歳になって間もない園部選手は 174cm の長身で、体格では外国人選手と見劣りしない。



Source: WTA.

2月のWTAアブダビオープンで、主催者推薦で予選に登場した園部選手は100位前後の上位選手を破って、初めてWTAトーナメントの本選入りを果たした。この時の園部選手の世界ランキングは837位である。しかも、本選1回戦で、世界ランク55位のユエン・ユエを破るという快挙を成し遂げた。2回戦でジャバー（現世界ランク32位）に敗れたが、WTA初出場の大会で、予選から3勝したのは上出来である。同じ全豪を制しながら、1年経ってもチャレンジャー大会で苦戦している坂本怜とは対照的である。

このアブダビオープンの活躍で、462位に急上昇したが、現在でもWTAトーナメント活躍できる力を持っている。ただ、ラインキングが低いために、WTAの予選にも簡単に出場できない。ポイントを稼ぎ、まずWTA予選にストレートインできるランキングを獲ることが必要だ。

現在のテニス界ではパワーのない選手は勝ち上がれない。その点で園部選手はサーブとストロークで力負けすることがない。女子では少ない左利きという点も有利に働く。もう一段パワーを付け、安定性を増せば、世界のトップとも対等に戦うことができるだろう。まさに期待の星である。

調子を取り戻した小林陵侑選手

小林の今シーズンは体調不良から出遅れ、ジャンプ週間も見せ場なく終わってしまい、今シーズンのW杯優勝は無理かと思われた。その後、小林はポーランドの大会をパスしていったん札幌に戻り、体の調整と飛躍の感覚を取り戻す修正トレーニングを重ねてW杯に戻ってきた。

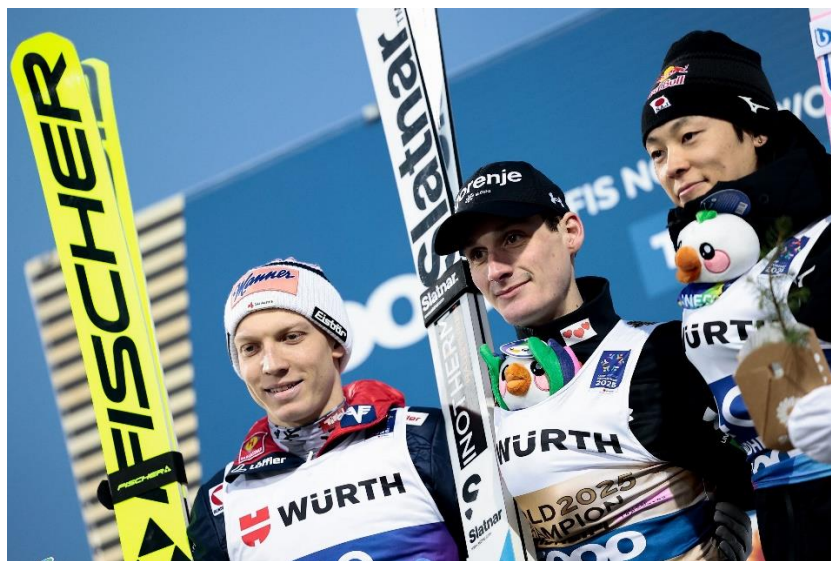
その後の小林は明らかに調子が戻った。表彰台にはなお遠かったが、トップテンの位置を確保するまでに復調した。そして、2月下旬のW杯は札幌大会で、2連勝してW杯算優勝回数を34に伸ばし、W杯優勝記録歴代単独7位となった。

小林はこれまで、W杯総合優勝2回、ジャンプ週間優勝3回（1度は史上3人目の完全優勝）、オリンピック金メダル（北京五輪）の成績を収めている。いわゆる世界3冠である。この荣誉の一つ足りないのが、2年に一度開催される世界選手権の金メダルである。今年シーズンの調子を見る限り、金メダルは難しく、表彰台に立つ

のも難しいと思われたが、W杯札幌大会以後の調子を維持すれば、4冠達成が期待できるほどになった。

しかし、世界は甘くなかった。とくに今シーズンはオーストリアの若手選手の台頭が目覚ましく、スロヴェニアやノルウェイの選手が好調を維持しているため、勝敗の行方は混沌としていた。事実、ノーマルヒルでは小林は表彰台から遠かった。

3月8日の世界選手権ラージヒル予選で小林は140mを飛び、トップのリンドヴィックに0.4ポイント差の2位に入り、もしかしてという期待を持たせた。本選1回目ではトップのプレヴツに5.1ポイント差の5位に付けた。距離にして3メートル弱である。ラージヒルではこの差はないに等しい。2回目も137mと距離を伸ばしてメダルが期待されたが、4位に終わってしまった。140mを超える大ジャンプが必要だったが、いま一つ距離を伸ばせなかった。



Source : FIS

表彰式で国旗掲揚の準備が整ったところで、2位のリンドヴィックと5位のフォルファングのノルウェイ選手の失格が発表され、急いで国旗の取替作業が始まった。ノルウェイ選手は茫然自失となり、小林選手は繰り上がりの3位になり、他国選手の祝福を受けることになった。失格の詳細は発表されていないが、TVのテロップでは、「suits manipulation」と表示された。このような失格表示を見るのは初めてである。

ノルウェイ選手のスーツを巡っては、競技前にポーランド、スロヴェニア、オーストリア、ドイツの連盟から組織委員会に疑義が寄せられていた。たまたまポーランドのカメラマンが撮影した映像から、ノルウェイ選手のスーツに細工の後が見られるという情報が寄せられ、それを知った各国連盟が組織委員会に対応を求めた。

欧州各国のスーツのほとんどはノルウェイの会社が製造しているが、各国チーム納入されたスーツとノルウェイ選手のスーツに違いがあることが話題になっていた。ノルウェイ選手のスーツの膝から内股にかけて、特殊な細工がしてあり、それが FIS 規定に反すると認定されたのだが、ノルウェイのコーチはその細工を認識していたようだ。そのため、多くの選手はたんに規則違反ではなく、罰則が科せられるべきだと主張している。メダル争いは 50 センチ、あるいは 1 メートル単位の戦いになるので、不正な細工は許されるべきではないという主張である。

今年の世界選手権ではノルウェイとスロヴェニアがメダルを総ざらいしたこともあり、主催国であるノルウェイへの反発が高まった。最後の最後に、後味の悪い結末となった。

スキージャンプ W 杯はシーズンの最後のステージに移り、これからフライング競技が始まる。200m を超えるジャンプ台で W 杯の最終ステージが争われ、最終戦の舞台は恒例のスロヴェニアのプラニツァである。小林はフライングを得意とするが、スロヴェニアの選手も慣れ親しんだフライングを好んでいる。小林選手には W 杯の勝利を積み重ねてもらいたい、世界の舞台は生易しくはない。

小林が 2 勝した札幌大会は今年も観客の数が少なかった。数百人規模だった。これで五輪を呼び込むのは難しい。宮の森ジャンプ台を廃止して、大倉山のジャンプにノーマルヒルのジャンプ台を作る構想があるようだが、葛西選手はよりスケールの大きなフライングジャンプ台の創設を望んでいる。